第三回　上野松颯会定期能楽会

令和七年十二月二十一日(日)　午後一時始

野宮

仕舞
柏崎道行　前田飛南子
和布刈　上野雄介

能
赤井きよ子
江崎欽次朗

間　善竹隆平

後見　上野朝彦　野村昌司

地謡　上野義雄　成田達志　野口亮　田口亮二　上野雄三　渡邉瑞子　上野朝義　前田飛南子　赤松禎友

〈休憩　十五分〉

伯母ヶ酒

狂言
善竹隆司

仕舞
葵上　上野朝義
葛城キリ　上野雄三

後見　上西良介　上吉川徹

地謡　渡邉瑞子　前田飛南子　赤井きよ子

熊坂

伊原昇

能
福王和幸

間　小西玲央

後見　野村昌司　上野朝義

地謡　辻雅之　久田陽春子　上田慎也　貞光義明　上野雄介　上野朝彦　田口亮二　渡邉瑞子　上野雄三　赤松禎友

附祝言

終演予定　午後5時

『野宮』

ある秋の夕暮、旅僧が、嵯峨野の野宮を訪れると、忽然と一人の里女が現れ、僧が問いかけると、今日は9月7日で昔を偲ぶ日だと言い、昔、光源氏が野宮に六条御息所を訪ねた日であることや、御息所が、絶えがちな源氏との恋仲を清算すべく、斎宮になる娘に連れ添って野宮に籠り、源氏の訪問の後、伊勢へと下向したことを語る。そして、自分こそ御息所だと名のり、姿を消す。【中入】

そこで、僧は来合わせた里人に御息所について尋ね、夜もすがら弔っていると、車に乗った御息所が現れ、葵上との車争いに敗れたことを嘆き、妄執を晴らしてほしいと頼む。そして、昔を偲んで舞を舞い、源氏の訪れを思い起こして懐かしみ、迷いから抜けられない自分を顧みつつ、また車に乗り、消えて行った。

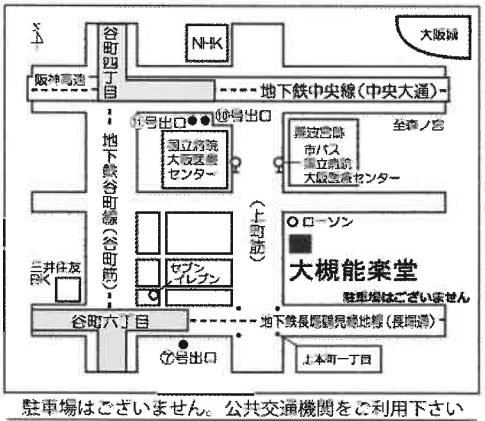
『熊坂』

東国修行に旅立った僧が美濃国赤坂の里に来た時、一人の僧に呼び止められ、さる者の命日だからと回向を頼まれる。神仏堂に案内されるが、そこには武具ばかりが並べてあった。僧は山賊夜盗から人々を助けるための道具だと答えるが、その姿は闇に入ると見えて掻き消え、庵室も草むらに変わってしまう。

【中入】

旅僧は、里人から盗賊熊坂長範のことを聞き、先程の僧は熊坂の幽霊だと察し弔っていると、熊坂が現れる。熊坂は昔、金売吉次一行を襲い、一行の中の牛若丸に手下の者が次々と討たれ、熊坂も挑み戦ったが、重症を負い、松の木の下でむなしくなったことを語る。そして、旅僧に弔いを頼み、消え失せる。

※本公演における許可のない写真撮影・テープ録音・携帯電話等にての撮影・録画は固くお断り致します。
・発熱や咳など、風邪の症状がみられる場合はご来場をお控えいただきますようお願い致します。



駐車場はございません。公共交通機関をご利用下さい

○大阪メトロ谷町線・中央線「谷町四丁目」下車、⑩番出口南へ約 300mまたは谷町線・鶴見緑地線「谷町六丁目」下車⑦番出口北に 360m

○市バス「国立病院大阪医療センター」下車南へすぐ　※大阪駅前から 62 系統「住吉車庫前」行乗車

◆「野宮・熊坂」の演目解説講座

～定期能をより楽しむために～

・「野宮」　11月28日（金）
・「熊坂」　12月5日（金）
　昼の部　午後1時～午後2時半
　夜の部　午後6時～午後7時半

○内容

・謡本を読んで、物語を味わいましょう
・装束や能面をご覧ください
・作り物、小道具について
・「素謡」をお聞きください

☆曲目ごとにテキストをお渡ししております。

○料金　２０００円

○会場　朝陽会館　大阪市北区天神橋一の一七の八

○お問い合わせ先
朝陽会館　０６（６３５７）０８４４
info@choyokaikan.com